



須田っ子 第10号

学校教育目標「すすんで心や体をすこやかにする子」SA・SU・GA・DA



来年も お願いいたします

「違う顔と多様な考え、でもバラバラではない仲間。」～全校集合写真（2018.11.27）



何をしてきたのか？

校長 内山 晋

置き換えると発見がある

児童作家アンデルセンは、たくさんのお話を残しました。でも、その発想は、どこから生まれたのでしょうか。アンデルセンは、貧しい家（アヒル）に生まれます。しかし、挫折を乗り越え、豊かな人々（白鳥）の仲間入りをします。童話「みにくいアヒルの子」と重なるところがありますね。でも、実生活では悩み続けます。生活は豊か（白鳥の仲間）でも、コンプレックス（自分は、アヒル）を持ち続けます。確かに、苦しみますが、自分の人生を童話の世界に「置き換え」たことで、心が救われたのかもかもしれません。

してきたのは、たった一つ

76日の二学期で、子供たちは様々な体験をしてきました。マラソン大会、文化祭、ふるさと須田学習など。これらを通じて、子供が「自分は成長したな」と振り返ることを大切にしてきました。そのために指導してきたことが、【置き換える力】です。数々

の体験で思ったことを、別の場面でも【置き換える】ことが生きる力につながります。読書でもできます。「面白かった」の後に、「あれ、このお話の人みたいなのが私の周りにもいるよ。朝のひまわり会の人たち、にこにこ顔で元気をくれるよ。」等、だれでも物語が創ることができそうです。

できるための努力を続ける

今回の学校評価アンケートから、子供の成長の姿を読み取ることができました。ただ、【置き換える】ためのスキル（つまり）には指導の余地があります。自分の考えを相手に分かってもらうためには、相手の立場に立って分かりやすい言葉に【置き換える】工夫が必要です。有名なあの言葉「大工と話すときは大工の言葉を使え」と同様です。

『難しい』から『できない』と諦めず、『できない原因』を発見し改善する『力量』を高め続ける「須田小学校 ver.2」を、目指し続けます。

自己有用感（さすがだ）

今年一年間繰り返し返し子供たちに伝えてきたことは、自分を信頼し「さすがだ」（自己有用感）をもつことです。来年もよろしく願います。



須田小 イイね!

2018年もあと少し。2学期は、秋・冬の2つの季節にまたがり、様々な活動を体験した子供たち。このことを自信につなげ、3学期も大きく飛躍してほしいです。



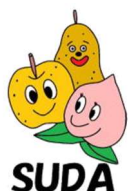
12/6 (木) ～がんばりタイム～縄跳び編
恒例の「がんばりタイム～縄跳び編」。2限と3限の間の時間を使い、全校が半分になり、短縄跳びと長縄跳びを行います。広いスペースを使う長縄跳びは、体育館で行います。回数が重なるにつれて、大縄を回す勢いも増してきます。

来年2月初旬まで続きます。



12/14 (金) 桐ダンスづくりを見学
3年生社会科では、私たちの支える仕事を学習します。今回は、物を作る人たちの工夫や努力を、加茂の桐ダンスを通して学びます。一竿のダンスを作り上げていく工程の一つ一つを丹念に見学してきました。

須田小ホムパ-グ
ここ→



11/30 (金) 6年生 加茂軍議

6年生は、総合学習の時間で、今から150年前の戊辰戦争の加茂軍議を教材に、歴史から「対立」ではなく「対話」を通して、問題を解決していくよりよい方法について学習しています。講師として市史編纂室 関 正平 様から当時のお話をお聞きしました。



12/12・13 SASUGADAS カップ

今回初めて行われたSASUGADASカップは低学年限定の大会でした。子供たちのボールを投げるボルトの姿勢（高く肩を上げ、身体を捻りながら投げる）が多く見られました。2回大会は1月以降に予定。



12/14 (金) 協力に感謝! 資源回収活動

各家庭にある新聞紙などの紙類を、環境美化委員会を中心に集めました。おかげ様で、トラックに新聞紙の山ができる程集まりました。尚、収益金は後程お知らせします。須童会の活動に活用していきます。ありがとうございました。